

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	教育基本法の精神に則り、生徒一人一人の個性と能力を見つめながら、その将来を洞察した取組の実践 ○「高い志」と「切り拓く力」……八高のよき伝統、校風のもと、高い志をもち知・徳・体の調和のとれた心身ともに逞しい人間の育成 ○「学び」の充実……「主体的・対話的で深い学び」を踏まえ、学業や部活動等において自ら考え行動するとともに、協働して探究する力の育成	学校整理番号	10
(2) 現状と課題	教員主導の学習手法から、生徒に時間を与え、生徒自らが自分に必要な学習を見出し、それに取り組む「新スタイル」への転換を目指してきたが、その仕組みが浸透してきた。しかし、時には教員が課題を与え、生徒を導いていくことも必要であることから、そのバランスとメリハリを考えながら指導の「新スタイル」をよりよいものへと改善していく必要がある。	学校名	青森県立八戸高等学校
(3) 重点目標	1 確かな学力を育む(学習指導)	全日制の課程	
	2 豊かな心を育む(生徒指導等)	自己評価実施日	令和 5年 12月 4日(月)
	3 志の実現を支援する(進路指導)	学校関係者評価実施日	令和 6年 2月 27日(火)
	4 開かれた学校づくりを推進する(外部との連携)	(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	大学関係者 1名 民間企業代表者 1名 元県立学校校長 1名 保護者代表者 1名
(4) 結果の公表	ホームページで公表する		

自 己 評 価				学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策	
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度		(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等
1	確かな学力を育む(学習指導)	1 授業の徹底(授業第一)	授業中の発問の工夫や生徒同士のグループワークの活用等により、学習意欲を高める授業を日々実践した。生徒の授業アンケート結果からもそれが実践できたことが明らかになった。	A	・先生方の取組、思いが生徒にも伝わっていることがアンケート結果からわかります。今後も良い点は生かし伸ばしてください。 ・授業を拝見し、ICTの活用、考えさせる授業がとても印象的でした。	教員がまずICTを使ってみる段階までは進んだため、より効果的な場面で使う、生徒が主体的に活用するような授業実践を推進する。
		2 新学習指導要領に向けた授業改善	スクール・ポリシーで示した育成を目指す資質・能力を念頭に置いた授業の展開、ICTの効果的な活用を授業改善の視点として各教科が意欲的に工夫を行った。	B	・ICTの活用により学習の風景が変わったと感じている。より深い学びに繋がっている。 ・スクール・ポリシーなど学校に求められる正当性が肥大化していることを憂慮しているが、それに対して正面から向き合っていることを誇ってよい。	スクール・ポリシーを意識した授業実践は今年度からスタートしたもので、次年度も継続していく必要がある。現在は個々の教員の取組であることから、次年度は教科として指導のあり方を検討する。総合的な探究の時間において、調査段階で校外で活動できる仕組みづくりを構築する。
		1 「掃除・挨拶・5分前」の徹底	全学年とも学年の目標の一つに挙げ、教職員一丸となって指導を徹底、継続している。	A	・継続して取り組んでほしい。全教員が共通認識を持つことが大事である。	挨拶については、一部の生徒で改善が必要な点があるので、粘り強く指導する。

2	豊かな心を育む (生徒指導等)	2 一人一人に寄り添った教育相談	学年、教科担当者、部活動顧問、養護教諭、スクールカウンセラーなど多方面から生徒の悩みに寄り添い助言指導してきた。また、いじめ問題・特別支援等教育相談委員会を定期的に開催し、配慮を要する生徒についての情報共有を行った。さらに、いじめアンケートを年3回行い、その結果を共有して早期発見と適切な対応に努めた。	A	・いじめへの対応は年々難しくなっていると感じます。初期段階から生徒や保護者の信頼・協力を得て対応できるような学校にしてほしい。 ・いじめや不登校に真摯に取り組んでいると感じました。 ・学習以外の日々の学び合いが八高の魅力。登校できなくなる生徒が増えるのが残念である。	相談室を継続的に利用する生徒が増加していることから、相談室から教室に無理なく戻す手だてを検討する。
		3 学校行事・特別活動等での自己の伸長	修学旅行、文化祭、卒業式での校歌斉唱等、すべての学校行事を通常通り実施できた。また、創立130周年記念事業として行った記念式、展示会、記念講演を通して生徒に様々な経験を積み、見識を深め、人間的な成長に資することができた。	A	・学校行事が通常通り行われたことがとてもよかった。生徒たちもそのありがたさを感じているようだった。	コロナ禍で中止してきた海外語学研修について、この機会にゼロベースで考え次年度から新たなスタートを切る。
		4 部活動の充実と学業との両立	文武両道という校風のもと、生徒が主体となった部活動を通して逞しさの育成ができた。大会や各種コンクール等での活躍も多く学校の活性化にもつながった。今後も学業との両立、生徒の健康と安全に十分留意して活動させたい。	A	・保護者アンケートにおいて、学習活動と部活動の調和に関する項目が他の項目より評価が低い印象です。	部活動に熱心な先生ほど、指導に時間をとられて多忙化を悪化させてしまうことから、活動日と休養日の設定など、県教委のガイドラインに従いながら、適切に実施する。
		5 読書活動の推進	本校教員が推薦した課題図書の中から生徒が1冊選んで感想文を作成する校内読書感想文コンクールを今年度も継続して実施した。また、図書館通信や生徒玄関の電子掲示板を通じて新刊図書等の情報発信を行った。	B	・読書は人としての総合力を磨く大きな効果がある。多忙になるかとは思いますが継続してほしい。 ・読書活動の推進は家庭に一任してもよいと思います。	生徒が読書に取り組むのが校内読書感想文コンクールの時期だけで終わらず、日常的に読書に親しめるような啓発活動を継続する。
3	志の実現を支援する (進路指導)	1 3年間を見通した進路指導計画と実践	3年間を見通した進路指導計画に従い、授業、定期考査、実力テスト、校内模試の大きなサイクルを軸とした教科指導を実施するとともに、校内模試、外部模試の活用や、難関大学、医学科志望者のためのプログラムなど、体系的、組織的、継続的な指導を行った。	A	・八戸高校の進路実績は、その取組の正しさを物語っている。そのノウハウを全教員で共有してほしい。 ・難関大学や医学部への進路指導が充実しており高く評価できる。また、卒業生（再チャレンジ生）への支援は素晴らしい取組だと思います。	本校は重点校事業の運営を担当しているため数多くの企画を運営しており、教員の負担が大きい。複数対応、他分掌との連携等により、一部の教員だけに負担が集中しない体制を構築する。東大、医学科、東北大指導、3年間の指導体制について、時代の変化に合わせた修正を加える。
		2 二者面談等の充実	生徒一人一人が高い志を維持し、その目標を達成できるよう、各学年とも計画的に時間をかけて個別面談を実施した。また、面談の充実を図るために進路検討会を実施し、担任が教科担当者から生徒の現状と目標達成に向けた学習法について情報収集できる機会を設けた。	A	・生徒自身が主体的に進路を考えるよう、より多くの情報提供をしてほしい。	二者面談のきめ細かさについては保護者からも高い支持を得ており、今後も継続する。また、教職員が本来の業務に時間をかけ、成果を挙げられるよう、業務のスリム化、多忙化の解消に取り組む。
		3 大学入学共通テストへの対応	昨年度の出題や模擬試験の出題の内容、傾向を研究して、各教科担当者が授業での問いかけや考査問題に反映させた。また、来年度のテストで加わる教科「情報」の対策について本校の指導方針を検討し決定した。	A	・受験の形式も多種多様になってきているが、全国に通用する指導を今後お願いしたい。	今後も各教員の指導力向上を図り、全ての生徒の進路希望達成に向けて邁進していきたい。

4	開かれた学校づくりを推進する (外部との連携)	1 保護者、外部4団体との連携	130周年記念特別講演や春、秋の公開授業など、保護者が学校に足を運ぶ機会を増やした。また、各学年の分会も活発に行い、学年の情報を積極的に発信した。	A	・公開授業の保護者の参加数に驚いた。また、八高祭に小中学生の姿が多く見られ関心の高さがうかがえた。	県教育委員会の方針として勤務時間外の電話対応は基本的に行わないことになるため、保護者との連絡方法について整理し、確実に伝達する。既存の欠席連絡システムを活用し、連携を深めていく。
		2 ICT環境の整備とその活用	全生徒にタブレットが貸与され、生徒は意欲的かつ効率的に探究活動で利用した。また、校外での研究発表においてタブレットを活用してプレゼンテーションを行った。	A	・ICTの利活用が進んでいることがわかりました。今後も継続的に利用範囲の拡大と内容の充実を図ってほしい。	県の事業としてICT支援員が導入されることから、積極的に活用して年々拡大している情報担当者の負担の軽減を行う。
		3 学校HPの充実と更新増	学校HPの構築環境を刷新し、スマートフォン対応とした。また、全教員がHPの更新ができる環境としたことで更新スピードが早くなり、頻度も増加した。	A	ホームページ担当者の方、本当にご苦労様です。	年度当初に学校HPの更新方法について周知し、各学年・分掌の先生方が情報発信しやすい環境を構築する。また、保護者向けに学校HPで奨学金に関する案内を行う。
		4 学校評議員会等の活用	学校評議員会を6月と2月に実施し、評議員の提言を学校教育活動の改善に役立てた。学校行事では学校評議員にも案内を出し、今年度は公開授業に参加していただき助言を仰いだ。	A	・互いに尊重してわかり合える社会を築き上げる人たちを育ててさらなる存在感を帯びた伝統校になることを応援しております。	学校評議員に学校行事を視察していただき、助言をいただくのは本校にとっても有益でありがたいことである。次年度も継続して実践する。
		5 学校施設の開放	公開授業、中学生の一日体験入学を実施し、保護者、中学生が本校の学校施設や教育活動を理解する機会を設けた。申請があったときにはグラウンドや体育館、弓道場等を各種大会の会場として提供した。本校生徒が出身中学校を訪問して本校の学校生活を紹介する取組を本格的に実施した。	A	・少子化が進む中、情報発信はますます重要になる。中学生や保護者にわかりやすい情報の発信を期待します。 ・出身中学訪問は、中学生にとってもよい取組なので今後も継続してほしい。 ・中学校へ出向いた生徒も誇り高かったのではないのでしょうか。よい取組だと思います。	本校生徒の出身中学校訪問について、来年度はさらに拡大し、生徒が主体的に活動していく取組にする。

(11) 総括	<p>創立130周年を迎えた今年度は大きなテーマとして、生徒はもちろんのこと、教職員も八高で学んでいること、八高で教えていることの意味を感じてほしいため、「自信」と「誇り」とした。1年を通じて生徒も教職員も本校の歴史と伝統を「誇り」とし、教員は授業力、指導力に磨きをかけ、授業を始めとした教育活動にしっかりと取り組んだ。生徒もそのような教員が提供し、展開する教育活動を信頼し、八高で頑張っていれば大丈夫と感じていたと思う。今後も「自信」を持って教育活動を推進していきたい。</p> <p>今年度はランドデザインの完成に至った。今後は、生徒及び教職員にスクール・ポリシーを浸透させる必要があることから、シラバスや各種アンケートの項目に反映させるとともに、様々な教育活動の場面でスクール・ポリシーに触れ、考える機会を設けていきたい。</p> <p>本校は重点校として近隣の高校だけでなく、地域との連携も併せて考えていかなければならない。校内の様々な取組に加え、重点事業の取組は非常に負担ではあるが、事業の効率化を図り、地域の人財の育成に寄与していきたい。</p> <p>現在中断している海外語学研修については、単にコロナ禍前の取組に戻すのではなく、より充実したプログラムになるようゼロベースから考えた上で来年度新たなスタートを切りたい。</p> <p>各分掌で多忙化解消の取組を実践するとともに、学校としても朝の欠席連絡等をフォームを使用することで負担は軽減した。来年度からはデジタル採点システムの活用や電話対応を勤務時間のみ限定するなどしながら、多忙化解消を加速したい。</p>
---------	--